



議会だより

第2回プロアマチャレンジ IN 壱岐ウインドサーフィン大会（9月17日 石田町錦浜にて）

主な内容

第三回臨時会および 九月定例会の概要・市長行政報告 p 2	一般質問 p 6 ~ 20
平成16年度補正予算 p 3	請願・陳情・要請等の審査経過報告 p21
質疑 p 4 / p 5	委員会レポート p22 / p23
	研修報告・傍聴席から・編集後記 p24

第三回臨時会

岐消防署にて指名競争入札がなされ、福岡市内の業者が落札している。

八月五日、平成十六年度吉岐市議会第三回臨時会が開かれ、「化学消防ポンプ自動車購入契約の締結について」の一議案が上程され、原案のとおり可決した。

契約金額は三千六百三十三万円。納入期限は平成十七年三月二十五日。配置される場所は吉岐消防署郷ノ浦支所の予定となっている。



来年三月に更新予定の化学消防ポンプ自動車

九月定例会

去る七月二十三日に吉



平成十六年度第三回吉岐市議会定例会は、九月三日から二十八日まで二

十六日間の会期で開かれ、本年度一般会計補正予算十二億二千五百八十万円、特別会計補正予算六億六千八百七十七千円をはじめとする議案二十一件、決算認定四件、請願二件、議員提出議案一件を審議した。

三日は、議長の諸般の報告、市長の行政報告に続いて議案の上程、それについての説明がされた。六日は、上程議案への質疑、議会運営委員会。八

設置、常任委員会への議案及び請願の付託。九日、十日、十三日は、一般質問が行われた。

二十一日、二十二日は常任委員会、二十四日には予算特別委員会において、一般会計補正予算の審議。最終日には一般会計補正予算をはじめとする上程された案件のうち継続審査となった決算認定二件を除き、すべて原案のとおり可決した。

市長行政報告

行政改革の取り組みは、同委員会に論点を諮問、十月末に中間答申を得、最終答申は十七年十月末、これを受け改革に着手したい。

吉岐市誕生までの経緯と合併後の課題を研修するため、三月から県内外より三十二団体約三百名が訪れ、交流人口の増大につながった。

十五年度の市税の収納率は、前年度より〇・一割アップして九八・三割であった。国民健康保険税は、〇・二三割低下して九六・〇四割であった。十六年度への滞納繰越額は、両方で約四億五千万円。

農林災害は、五月、六月の豪雨によって一億九千二百万円（農地百四十四件一億四千六百万円、施

設二十三件四千六百万円）であった。

十五年度の農業生産は、畜産二十六億円、米・麦・大豆九億二千万円、園芸作物七億四千万円、たばこ六億三千万円で、合計四十八億円であった。十六年度目標は五十七億円（畜産三十億円、米・



ミニニティー基盤整備事業で、前年度に設計業務も終わっている。条件が整い次第、本体工事に着手したい。

道路事業は、十六年度単独事業で三〇路線を予定している。他補助事業で三路線。

今宮公営住宅については、昨年九月工事を中止していたが、今年七月下旬から工事に着手、十七年二月末迄には完成予定。

病院事業については、六月定例議会で「吉岐公立病院に人工透析室の設置を求めるための請願」が採択されているので、旧町村組合での審議と地域医療の状況など再検討を行い、吉岐医師会との調整を経て透析機二台を救急、緊急時に対応するため設置する。建設中の新公立病院の建設進捗状況は、八月末で二九割、若干の遅れがある。

芦辺港ターミナルビル建設計画は、新漁村コ

決定!

芦辺港ターミナルビル 建設予算

9月補正予算

主要事業一覧

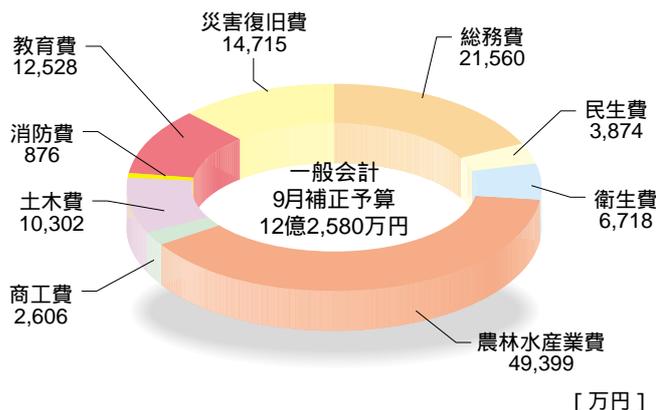
一般会計 (万円)

施設設備等修繕工事 郷ノ浦町環境管理センター	1,210
合併処理浄化槽設置整備事業 当初130基 160基見込み	2,673
肉用牛振興ビジョン21対策事業費補助金 牛舎9棟、堆肥舎8棟	3,024
水産業振興総合対策事業 漁場管理保全対策事業(イルカ追払い事業) ブルーツーリズム推進事業補助金(体験資材格納庫建設) 新世紀水産育成事業費補助金 水産業創出事業補助金 ながさき旬鮮ブランド魚定着化事業補助金(苓岐剣坂路開拓)	2,947
施設設備等修繕工事 サンドーム苓岐	1,160
市道維持補修事業 左京鼻線外	1,789
道路改良事業 単独事業8路線	2,780
県営道路整備事業負担金 5路線	1,245
国特別史跡「原の辻遺跡」復元等整備事業 体験交流広場整備事業、県立埋蔵文化センター等 用地測量、地質調査、環境アセスメント委託	6,221
体育施設整備事業 大谷公園公衆便所施設整備事業	3,340
農地及び農業用施設災害復旧事業 16年災 農地76ヶ所、農業用施設20ヶ所、小規模災害復旧工事全体20ヶ所、農地等災害復旧事業補助金20ヶ所	14,385

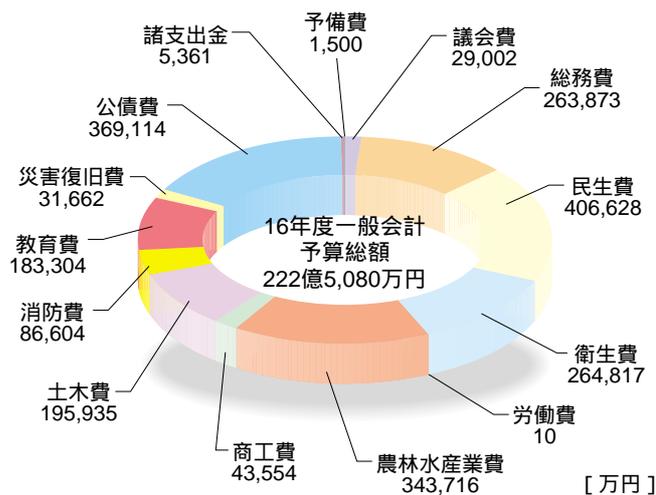
特別会計

介護保険事業	6,554
下水道建設事業 中央処理区	3,880
芦辺港ターミナルビル建設事業 芦辺港ターミナルビル建設工事 仮待合所建設工事 岸壁補強工事 既存建物解体工事	54,246

9月補正予算内訳



一般会計予算内訳



一般会計 9月補正	12億2580万
予算総額	222億5080万
特別会計 9月補正	6億6807万2千
予算総額	138億7420万8千
補正合計	18億9387万2千
予算総額	361億2500万8千



国民宿舎吉岐島荘

赤字覚悟の開発公社

(吉岐市開発公社とは、国民宿舎とサンドーム)

Q 経営会議は行われているか、また過去五年間の補助金はどうなっているか。

A 経営会議は行われていなかった。今後は実施したい。国民宿舎の方は、何とか経営は出来ている。

サンドームについては当初より二千万円前後の赤字覚悟で設立してある。

今までも約二千五百万円毎年補助をしている。

Q 貸借対照表で余剰金千三百万円あまりが示されているが。

A 単式簿記から、複式簿記に変更したため、付属設備品の財産金額を表している。

Q 源泉問題、それによる水道光熱費がかさんでいるという意味は。

A 地下八百坪からポンプアップしているため、トラブル続きである。その対策として、水道光熱費が必要となっている。

有効活用『合併特例債』

Q 合併特例債の対象事業並びに充当率は。

A 原の辻遺跡復元事業が四千百六十万円で、これに対する補助金を引いた残りの九五割。芦辺港ターミナルビル建設事業は、起債対象事業費四億四百万円で、これから補助金を引いた九五割。

嘱託職員の身分は

嘱託職員の任用期間は、

会計年度により一年を超える範囲とし、必要な場合更新することが出来る。ただし、引き続き十二ヶ月を超えて任用は出来ない。

Q ①一年雇用でありながら、なぜ定年制の基準があるのか。

②どういう基準で退職金が支給されるのか。
③ボーナス、各種手当は。
④市条例の法律など政令の根拠は。
⑤採用の公開性は。

⑥組合員であるのか。

⑦現在何名いるのか。

A ①定年というのは任用の年齢制限として、満六十歳までとしている。
②退職慰労金支給要綱により、勤続一年以上で退職した場合に支給。一年につき百分の四十。五年から十年の人で百分の六〇。十年を超えると、百分の七〇の算定、その率を合算したものを退職時の報酬月額に乗じて算定。

③加給として六月に一・四、一二月に一・六、予算の範囲内で支給している。

る。

④地方公務員法の第三条

二項、三項。

⑤現在は、公募によって採用試験を実施。

⑥組合員ではない。

⑦八月一日現在、百八十九名。

市長 ここで問題になっていることをはじめて

知った。今、行財政改革の作業に入っているので、指摘を受けたことに対して最大限の努力をする。

トイレは足りるのか

Q 大谷公園の便所改修工事費三千百二十万円は。

A グランドの周囲にある汲み取り式便所を解体して、駐車場の横とテニスコートの上二ヶ所に三十人槽と二十五人槽の浄化槽式便所を作る。

無駄遣いをなくせ

Q 当初予算、今回の補正予算合わせて約二十億円の委託料が示されているが、職員でまかなえる

ものがあるのではないか。

A 職員の中には、設計・建築・土木と優秀な人材がいる。今後は活用したい。

十分な説明を

Q 原の辻関連事業で将来的に多くの予算を必要とするのに、議会に対して説明不足である。

A 総務文教常任委員会の報告を受け、議会運営委員会が全員協議会を開催するようになった。

質疑



解体予定の公衆便所（大谷公園）



ダイエー西側の空地

東の玄関芦辺港

Q ① 芦辺港ターミナルビル建設費に対して、国の補助対象や合併特別債適用は、どうなっているか。

A ① ターミナルビル建設の着工、完成の予定は。砂の移転先問題は。

② 島内のフェリーターミナルビルについて、建設費負担は。九州郵船との関係は。

③ 芦辺港の漁村再開発とは。

④ ダイエー西側二町歩の空き地を整地して、環境を良くする。

A ① 当初示していた金額にはミスがあった。それは補助対象についてである。建設費四億九千五百万円のうち補助対象分七割、非対象三割となっている。

② 着工は本年末、完成は平成十八年の初め頃と考えている。砂については、早期に解決せねばと思っている。

③ 建設費については、基本的に県と地元半々となっている。九州郵船については、建設に対する負担はない。事務所等の使用料をもらっている。

④ ダイエー西側二町歩の空き地を整地して、環境を良くする。

漁業関係

Q 漁協経営改善事業の補助金は、何に使われるのか。

A 石田漁協については、信用部を二階から一階に移動。箱崎漁協について

農業関係

Q 集落営農担い手支援事業補助金とは。

A 勝本町竹ノ中機械利用組合のトラクター導入と郷ノ浦町牛方生産組合の機械倉庫建設に対する

は、灯油販売のための配管設備。郷ノ浦漁協については、コンピューター台更新。これらについて三分の一を市が助成する。

教育関係

Q 各種少年大会補助金

A 八月末実績で十二チーム二百二人、今後十二チーム三百五十人を予定している。大会によって県大会派遣の規定があり、それを踏まえて市の補助金要項により支出している。

観光関係

Q 観光費の中で、合宿委託料について事業の計画は。

A NEC女子バレー部の合宿を誘致する計画で、それに対する支援金及び謝金である。委託先は東京のトスエンタープライズ社。

土木関係

Q 海の駅構想とは。

A 嫦娥三島大橋架橋促進の中で持ち上がったもので、郷ノ浦港湾整備構想の一つ。今回、国より補助率二分の一の公募があったので取り組んでいる。

Q 市道左京鼻線は、どのようになったか。

A 海岸が浸食を受けて、市道が危険な状態になった。海岸保全是県営事業であるため、応急処置として民地を買い上げ迂回路を作る。県には申し入れをしている。

特別会計

Q 平成十五年度郷ノ浦町水道事業会計で、未収金千二百六件、三千八百万円。どういふ状況の未収金なのか。

A 市になって水道使用料の滞納が、三十八名千三百六十五万八千円となっている。これらについては五回に分けて、八戸ぐらいで期間を決めて給水停止をしている。滞納者の中には、事業所飲食店・民宿等もあり高額になっている。

議会で



海岸浸食の状況（市道左京鼻線）



一般質問

28名が激論!

持ち時間 30分



森山 是蔵 議員



Q 農業振興

吉岐の農家農村の現状を市長として把握しているのか。

担い手の問題では、現在認定農業者がいるが何人いるのか。農地の集積はどの程度出来ているのか。十分でないことがあるとすれば何が障害となるのか。

A 長田市長

担い手の高齢化、農産物の輸入増大や産地間競争の激化により、価格が安価で不安定というのが現状である。

認定農業者は、四月一

日時点で百九十八人であり、担い手の問題は農業委員会を核として、吉岐市認定農業者協議会を設立し、農地流動化奨励補助金や県農業振興公社担

い手農家農地集積事業等の活用を行い、会員相互の情報交換、経営技術の研修会の研鑽を行う。

Q 提案したい

予算の組み方を総花的でなく重点的に組んで欲しい。担い手は、地域の中で組織単位の補助地域全員が参加する農

A 長田市長

村の在り方にする。農水省は来年度から集落段階で地域の計画農地権者で農用地利用団体協議会を作る事を計画した。市でも当然乍ら取り組んで頂きたい。

現況の補助事業を再評価整理、農業のスペシャリストを育成する対策も必要となり、効果的かつ重点的な施策を検討する。

坂本 拓史 議員



Q 今後の畜産振興

畜産振興の状況は、各分野の努力により全国でも高い水準にあるが、一方では高齢化や後継者の問題等その対策も急務である。今後、更なる吉岐牛ブランド化への取組は。また、第十回全国和牛能力共進会が、当県で開催予定と聞けが、その取組は。

A 長田市長

ブランド化を図るためには、安定頭数の確保、市場販売頭数の確保が必要であり、今後もヘルパー制度や肉用牛飼養管

理対策に継続して支援する。

全国和牛能力共進会の誘致は、吉岐牛の名声を高める絶好の機会であり、県と連携を図りながら積極的に取り組む。

Q 活かせ！市有地

吉岐会館用地は年額三百六十万円程で駐車場として運用しているが、その収入でより好条件地にテナントを借り受け、運営は民間に委託して、吉岐の優れた特産品の販売及び観光・歴史等を情報発信する交流拠点の設置整備は考えられないか。

A 長田市長

一次産業と観光産業、民間企業が連携して吉岐の活性化を図るために、市独自で適地にテナントを借り上げ、吉岐市の売り込みを検討する。

Q 本庁舎 建設計画は

建設計画は現在どのような検討がされどう進められているか。また、行財政改革委員会に市長自らの意向を伝えてあるか。

A 長田市長

行財政改革の答申を待っているところであり、議会とも充分協議する。庁舎の位置については合併協議会の協定項目の決定を尊重する。



吉岐市認定農業者協議会設立総会
ふれあいセンターかざはや（9/24）



あしへ和牛共進会
(吉岐家畜市場 9/14)

深見 義輝 議員



は、振興を図ることは出来ないと。島内の人口流出の歯止め、Uターン者の対策として、更なる担い手対策をお願いしたい。

Q 行財政改革

吉岐市が誕生してから六ヶ月、未だに合併の本来の目的である行財政改革が見えてこない。民間的経営の感覚で行財政改革をどのような形で進められるか、市民が理解できるように説明を。

A 長田市長

担い手をつくるのが最重要課題であり、活動に対する助成、人材育成、担い手の資質の向上を図っていく。

A 長田市長

平成十六年度から、平成二十一年度で一般農道整備事業として要望している。地元の協力を得られるなら、県営事業として要望したい。県道への昇格は困難だが要望する。

Q 道路整備

吉岐島内の北面の海岸



整備が望まれる市道（芦辺町箱崎）

Q 一次産業の振興

「農水産業」は将来を背負う後継者がなくして

A 長田市長

本庁の態勢を強化し、支所では住民サービスが低下しないように本庁と支所の連絡が密に出来る体系づくりを進めていく。

小金丸益明 議員



Q 開発公社は現状追認か？

行財政改革の最優先課題は、各種補助金及び公共施設の管理運営を精査することである。一例として吉岐市開発公社（吉岐島荘・サンドーム）については早急な改善が必要である。年間二千五百万円という巨額の補助金を要するサンドームは即刻施設機能の転用を図り血税の浪費を抑止すべきである。また、吉岐島荘にあつては老朽化著しく抜本的な大改修（新築）を施し、拠点的観光施設として再生すべきと考える。

A 長田市長

吉岐島荘は全面的なりリニューアルを図り、スタジオも一新、再生を図る。サンドームは地域雇用・地産地消・温泉街のイメージアップに貢献している重要施設。改革・改善しながら継続運営したい。民間委託も考える。

A 長田市長

市職員採用時の消防団加入義務化は難しいが、奨励は続ける。水出し操法訓練場は来年度整備する。

Q 備えあれば憂いなし

消防団員の定数条例における在籍率九三割に対し、実働団員数は七割程



サンドーム吉岐

吉富 忠臣 議員



Q 物品納入業者
入札は

合併後の入札業者は従来通りであるのか。もし排除された業者があれば理由は何か。油等の入札については原価割れもあるのでは。業者の育成についての指導も必要ではないのか。

A 長田市長

入札は従来通り各支所で行っている。民営の圧迫を避けるため状況に応じて補助団体は指名から外している。

Q 選挙費用の
削減

平成十五年十二月より期日前投票制度が施行された。従来の不在者投票

も出来る。四月の市長選挙では期日前投票三千六百十六名、不在者投票五百七十名であった。今後人件費等を節約するためにも投票時間の繰り上げも必要ではないのか。

A 長田市長

投票時間の繰り上げは、特別の事情がある場合に限定されており、無理。

Q 救急救命体制の
確立

救急救命士の特定行為

患者に対し気管内挿管の研修計画と半自動式除細動（電気ショック）実施例と効果は。また採用時に有資格者（救急救命士）を採用条件とされないか。

A 長田市長

救急救命士の養成は、積極的にいうとともに資質の向上に万全を期す。また、有資格者の採用は階級制度の関係上、考えていない。

中村 瞳 議員



Q 油の価格対策

市長は公約の中で「吉岐は油が高い。タンクを大型化することで低価格化が可能であり、漁業者には年十億円の経費節減が出来る。」と説明。漁業者は大きな関心と期待をしている。十億円の算定の根拠は何か。補助金は確認していないというが、事前に確認すべきでは。タンクは新設か増設か。漁業者の期待に応え取り組み、公約は実行すべきである。

A 長田市長

漁業経営の安定向上のために大切な施策。農・漁協、石油商業組合と協議する。タンクは新

規に五基必要で、補助金は確認作業中。

Q 緊急患者の
搬送

現在自衛隊で大村に搬送され、対応が出来ない場合は保安庁で福岡に運ばれている。時間的に福岡と大村では二時間の差がある。これは一分一秒を争う時間との戦いであり生命に拘わる大きな問

A 長田市長

緊急患者の搬送は、福岡市と研究会をつくる計画があるので、しばらく時間が欲しい。



勝本町漁協石油備蓄基地（勝本町東触）

立石 和生議員



Q 行財政改革等

公約の行財政改革の課題は、経費の縮減、効率化であり、現状は本庁・支所・関係機関の連携が不十分で正常な機能とは言えない。そこで即、内部で実行できることは行革委員会の答申を待たずに早急に実現していくことが住民サービスの向上につながると思う。

と思う。また、家屋一棟調査は旧「武生水」「渡良」地区が未だに終わっていない。昭和六十三年度実施より十六年経過している。議会でも不公平と指摘されているが不十分な土地見直し同様に巧言でかわしている。何年に終えるのか。

ものについては早急に対処していく。本庁、支所体制は非効率的である。行革委や行財政診断を受け、庁舎建設は経費のかからない効果的な方法を考えている。家屋一棟調査について限られた人員の中で、急激な事務を優先し、十八年度の評価替え等があるので、税の公平、不公平がないように慎重に取り組む。

A 長田市長

組織の改編が急がれるものやうまく機能しない



窓口の様子（郷ノ浦支所にて）

赤木 英機議員



Q 機構改革

今の本庁支所体制では決裁等の時間がかかり、無駄も多い。各部署を旧四町に配置し、本庁には管理だけという体制をとれば無駄が省けるのでは。

A 長田市長

現在の体制ではうまく機能しているとは言えない。できるだけ早く組織機構を見直す。本庁、支所体制も効率的になるように早急に見直したい。

Q 交流産業

今後、交流人口を増や

すには物だけでなく、まず地域の人材の育成をやらなければならない。異業種間の交流を主とする組織を構築し、それを通じた人材育成を急務と考えるが。極的に展開する。農、水産物による「食」を観光資源とし、もてなしの心を大切にし、「癒しの島吉岐」を売り込む。今後大きな観光の受け入れ態勢の整備が必要である。

A 長田市長

島のセールスマンを長崎県福岡事務所に派遣し、確かな一歩を踏み出した。攻めの物産展を九月、広島を始めとし、各地で積



窓口の様子（石田支所にて）

原田 武士議員



Q 人材育成の
取り組み

職員教育の基本は公僕として住民に奉仕する事と理事者は綱紀粛正、信賞必罰を念頭に。

A 長田市長

人材育成の取り組みについては長崎県市町村職員研修協議会他、各種研修に参加させ、吉岐市人づくりプランという人材育成計画を進めている。

Q 合併特例債
合併特例債の内容と庁舎建設の額の予定についてはどうなっているのか。

A 長田市長

合併特例債の割り振りは、着工している三事業、今後、原の辻遺跡博物館建設事業、庁舎建設、ゴミ処理施設建設、汚泥再処理センター整備事業等多額の償還費、管理運営費が必要であるから財政状況を考慮しながら進める。庁舎建設はまだ未確定。経費のかからない方法で思っている。

Q 不公平行政

公共下水道工事の財源

を一般財源から常時繰り出すのは、不公平な行政になるのでは。

A 長田市長

公共下水道工事の財源不足を一般財源から繰り出すことは、



建設中の中央水処理センター

どの事業にしても補助事業で不足額は一般財源から出ているので不公平ではない。

Q 埋蔵文化財
センター

県の構想と建物の種類及び市の展示館構想について。

A 長田市長

埋蔵文化財センターと市の展示館については基本構想は出来ているが、詳細については県と協議中。

品川 洋毅議員



Q 農業問題

今年度より改正食糧法が施行された。今後どのようになるのか市の対応は。これによる農家の役割は何か。地域水田農業推進協議会の役割は何か。

A 長田市長

これまでどおり耕作面積などの割り当てをしている。農家については十九年を自給に自ら生産調整をする方式に移行することになる。協議会は水田農業の構造改革を推進することを目的とし、ビジョンの策定や実施状況の点検、交付金の配分が

業務となる。

Q 農業への補助金

国の「食料・農業・農村対策審議会」が補助金の抜本改革を行おうとしている。大規模農家でない、補助金はもらえなくなる。規模の認定は市町村で行うことになっているが、認定の線引きは何を基準にするのか。農産物全体に対する補助金制度はどのようになるのか畜産農家についてはどうなるのか。

A 長田市長

認定の方法については、まだ決定がなされていない。農畜産物への補助については、認定農業者を主体に農協なども連携を図り方向性を見きわめたい。



農業交付金に関するパンフレット(全国農業会議所作成)



館予定。費用については特例債を考えている。

Q 問いたい！
原の辻

原の辻遺跡は弥生時代の環壕集落としては国内三ヶ所の特別史跡として国指定を受けた。金子知事も埋蔵文化財センター建設を表明している。原の辻遺跡保存整備委員長の島ごと博物館の基本計画も策定され提言を受けた。展示館の二十一億円は特例債をあてるのか。今後市民に十分な説明を。

A 長田市長

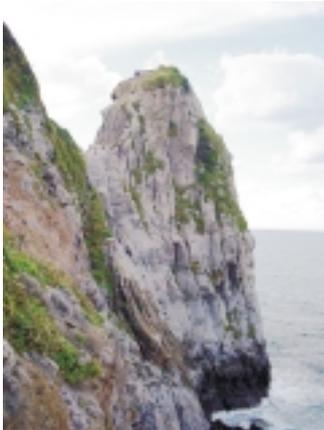
市民の意見の公式な答弁の場を実施、十二月に最終計画をまとめ、二十一年に県の施設と同時に開

Q 名所、史跡の
再点検

岳の辻は荒れているが、整備計画は。個人所有となつている猿岩は台風被害等を受けるとだいなしだがその対応は。イルカパークは水質の改善やインスタクター養成も含め「イルカと一緒に泳ごう」の再現を。はらほげ地蔵の土台はコンクリートでなく自然石に。砂浜の浜やせの調査が必要では。

A 長田市長

岳の辻については、本年より県営事業で三カ年計画で実施。猿岩については整備ができる



猿岩



はらほげ地蔵

るよう交渉していきたい。イルカパークの水質については調査で良質の結果がでており、事業については県などにも協力を得ながら実現できるように努力する。はらほげ地蔵については十七年度に実施する。浜やせについては原因の追究中だが保安林の整備などから随時進めていきたい。



Q 社会教育とは

子供のいじめや不登校、長崎や佐世保の悲惨な事件があり、教育に関して学校教育にはかり目が向いている。しかしその原因は社会や家庭にあると誰もが思っている。ゴミの不法投棄等、環境問題にしても同じ事である。現在行われている生涯学習も方向性を考えなければならぬ時に来ている。各支所に専門の社会教育主事を配置し、地域の中に入り地域に根付いた指導をしていくべきである。公民館、婦人会、青年団、老人クラブ等の活動は希薄化した人間関係

の潤滑油となる。リーダーを育成し、急激に変動していく社会情勢に対応できる新しい社会教育をどのように推進していくのか。

A 須藤教育長

現在の生涯学習課がモデル的な事業などを実践



アテネオリンピックで活躍した選手から指導を受ける生徒達
(10月6日 大谷体育館にて)

近藤 団一 議員



Q 病院事業の現状と今後

新公立病院の診療科について当初計画から社会情勢も大幅に変化しており見直しの必要がある。一つの例だが泌尿器科は週二回の非常勤となっておりが、今、かたばる病院に泌尿器科の専門医がいる。この状況で、何故週二回の非常勤なのか全く理解に苦しむ。今の公立は全てがこういううちぐはぐな状況にある。薬価にしても年間四億円がメーカーの選定。入札の改善で半分になるとも聞く。医師の給与も三年の研修医も十年の医師も、余り差異がないという。誤診や医療ミスもかなり

と聞くが表に出ない。研究費名目の裏金の噂もある。市長はこれらの疑惑を払拭するために毅然とした態度で調査に望んでもらいたい。いかがか。

A 長田市長

薬価等についてはいくら知ってはいるが信頼性がないので差し控える。国立病院から移譲を受けた以上は最善の努力をするが、企業会計は採算

性を重視しなければならない。しかし、市民の福祉向上のためには採算性を少し度外視した施設も必要である。

病院関係の行財政改革は、技術職のため減ったからといってカットするわけにはいかない。随時採用を減らしていくが今でも足りない状況である。病院関係の透明性については、隠し事が多いとの指摘であるが是非改めて市民の信頼に伝える。

公立病院にて

神原 伸 議員



Q 合併特例法に注意

自治体の財政構造の弾力性を測定する経常収支比率（普通交付税等の収入に対し、人件費、公債費等の支出に占める割合）は、吉岐市の場合八五・四割であり、七五割を超えると危険と言われている。今は合併特例法で、財政措置（十年間は合併前と同程度の交付税）があるものの、十年後からは大幅に減少する。そうなれば交付税は人件費で消える。そうならないためには職員定数を見直すべきである。

A 長田市長

職員数の削減については、策定する行財政改革プランに数値目標を定める。

四月の採用については、退職予定者十七人に対し八人の採用予定である。その内、事務吏員は十一人の退職に対し三人の採用の予定。他は保育士・看護士・技術吏員である。専門職の補充が中心である。合併特例債がある十五年後までには自然減で適正職員数にしたい。

Q 合併特例債を大事に

現在合併特例債は約六

億円余りの利用が計画されているがななくずしのような利用方法に疑問がある。今後は、特例債事業の中に地域振興基金も加え、早期に予算計画を立てるべきである。

A 長田市長

事業費が概ね確定しているのは自給肥料施設と芦辺港ターミナルビルである。原の辻については持ち出しが少なくなるよう努力する。諸施設のテナント化は今後の課題となると思う。公立病院嘱託職員の比率については、高めるように内部的に指示している。

合併特例債に関する資料

東谷 伸議員



十億円。また、公立病院事業で三十億円増える。

Q 今宮団地の事業計画

当初の計画は団地三棟と郷ノ浦給食センターの建設予定だった。今後、計画通り事業が進むのか計画そのものに原因があり市に責任があると思う。また、事業計画の代替案はあるのか。

A 長田市長

今宮団地は二棟建設予定。今後は住宅マスタープランに沿って実施する。給食センターは建設場所を検討中である。

Q もつか？ 吉岐財政

市の借金は現在三百五

公債比率は適正値を上回っており財政状況は厳しい。合併特例債は市全体の起債として財政健全化計画を検討したい。

Q 事業計画

市の財政健全化計画を早急に立案する必要があるのではないか。

A 長田市長



建設工事が進む今宮住宅（郷ノ浦町永田触）

三位一体改革のしわよせが考えられるが福祉・環境問題は今まで通り訴えていく。

本来の行政改革は行政のリストラであり合併による課題の整理、夢の実現に向けての努力が必要。吉岐のよさを活かしていくかに外貨を稼ぐ方法があるか模索していく。

中村出征雄議員



Q 新庁舎の建設計画

新庁舎の建設計画については、平成十七年十月の行政改革推進委員会の最終答申を待つて議会の特別委員会等設置して計画に着手すべきでは。

A 長田市長

新庁舎建設については、行政改革推進委員会の答申を待つ。最終答申は十七年十月である。

Q 支庁舎の活用

県の行財政改革の一端として平成十七年三月地方事務所への縮小。平成十九年三月教育事務所が

廃止となるので現吉岐支庁、現吉岐市本庁舎、郷ノ浦支所、三ヶ所を有効活用すれば新吉岐市庁舎として十分活用できる。

A 長田市長

吉岐支庁は段階的に縮小されるのは事実だが完全になくなる訳ではない。庁舎の位置は旧四町合併協議会の協定項目との兼ね合いもあり、これを尊重すべきと思っている。

Q 病院担当助役の選任

今後の二つの病院経営如何で市財政を圧迫する様なことは絶対に許されない。健全な病院管理運営のためには非とも担当助役の選任が急務であると思うが。

A 長田市長

病院業務に関しては専門的分野が多く、健全に管理運営するためには管理責任者が必要である。病院経営は今黒字でも苦しくなるのは目に見えている。管理者については、経営感覚、民間発想の視点で人選中である。



吉岐支庁

江川 連議員



Q

活用せよ！
農家の多面的機能

農村を復活させるには後継者育成しかない。そのためには新規就農者支援事業を現在の一年から三年に延長すること。そして三世代農家を作る。土と自然の中で子育てが出来る農家こそ少子化解消の柱である。三世代農家は保育園であり養老院である。助成とは予算措置を講じてこそ。

A

長田市長

農村の持つ保養機能や情操教育の場としての機能を有効に活用したい。支援策としては中山間地域等直接支払い制度等を

活用していく。今後さらなる一次産業の活性化に力を入れていく。

Q

ゴルフ場で
島起こし

民間出身、民生活を唱える市長が役員辞退とは何事か。毎年赤字を出し、旧三町議会がクレームを付けてはいるが、助成をしても吉岐にそれ以上の波及効果があれば良い。行財政改革を実現するには一日も早く市役所を中央に集約すること、塵芥し尿処理場も総てだ。

A

長田市長

経営の健全化を最優先に考える。観光面や雇用面においてもゴルフ場の活性化は必要。韓国からのゴルフ客の獲得も含め、民間活力に期待する。ゴルフ場利用税年三百万円の枠内くらいは援助していきたい。

平尾 典子議員



Q

活かそう！
吉岐の宝

原の辻遺跡一帯の、平成二十年度を目途にした整備計画の全容が明らかにされたが、市が負担しなければならぬ二億円の予算やその内容について、不満や不安の声を聞く。この計画が後の吉岐市にとって大切な財産になるために、官民一体となった作り上げへの具体的な取り組みが必要。原の辻一帯で歴史文化の学びの場、体験の場として、子供達を中心とした活用をしかけていきながら、本来の目的の共通理解を広げる努力を。市民が納得できる周知の具体策はあるのか。また、

A

長田市長

文科省補助金や国交省の事業採択についての経過はどうなっているのか。市長は、熱意と政治的手腕をもってこの大きな事業に取り組みべき。

A

山内文化財課長

市立展示館の用地、造成、建物についての国・県の補助金は基本的にならぬ。事業内容が具体化してから関係機関と協議する。

A

須藤教育長

歴史愛好団体を対象としたボランティアガイド講座、県教育委員会事業ドクターハルの原の辻講座、広報いきの連載等を使って周知を徹底



吉岐カントリー倶楽部



原の辻遺跡発掘作業風景

今西 徹也 議員



Q 新消防団
組織機構

来年五月の旧郷ノ浦町消防団の編成替えに合わせ吉岐市消防団が発足する予定と聞いている。調整班による細部の検討が行われているようだが、新組織機構はどの様なものか。また調整内容はどこまで進んでいるのか。

A 長田市長

吉岐市消防団組織は各町消防団の団長・副団長で構成される吉岐分会総会で骨格が協議決定。

Q 消防団新設

市内、小学校区単位で

配置を調べてみると唯一箱崎校区だけ消防団施設がない。地域防災の必要性から是非必要と考える。

A 長田市長

地元住民の合意形成と同時に芦辺町消防団の理解が必要。消防力の配分、資材・機材の整備を含めて関係機関と検討する。

Q 消防団事務

新市になり消防団事務

を消防本部が行っている常備消防と非常備消防とは役割が違うと思う。本来この仕事は市総務の仕事と思うが。

A 山川消防長

予算については、各支所消防主任が消防団と協議の上提出されたものを、消防団事務より財政課へ提出している。執行についても同じ。



消防団格納庫（芦辺町瀬戸浦）

中田 恭一 議員



Q 学校の
統廃合について

少子化の進む中、学校の統廃合について将来的な考えは。

統廃合については、地域の生活体系の違いなどで難しい面もあると思うが、校区の見直し等も考えながら、子供達のためになる統廃合を計画してほしい。特に、中学校については、クラブの選択などで子供達も不自由をしているので早急な検討を願う。

A 須藤教育長

小学校は地域の核という性質も持っており、住民意識や児童の通学条件

等の問題からも統廃合は考えていない。中学校については地元の理解を得た上で統廃合し、子供が集団の中で切磋琢磨ができるようにする。

校区の見直しについては、統廃合に伴い行っていくが、小学校区の一部については校区の弾力化または学校の選択制の導入を検討する。

しつかりせよ！
介護事業

現在特養ホームのケアマネージャーの退職によ

り、デイサービス事業が休止の状態となっている。後任の職員の補充を急ぎ、五十人余りの利用者が安心して継続利用できるよう早急な事業再開を望む。

A 長田市長

八月より有資格者を求人中だが応募者がなく休止せざるを得ない。今後人材確保に務めていく。利用者にはサービスの停滞がないよう、早急な対策を検討中。



吉岐デイサービスセンター（勝本町本宮南触）

倉元 強弘 議員



Q 庁舎問題は

市庁舎建設問題。行財政改革委員会の提言を待つとのことであるが、現在の市のスタッフで計画できないのか。

A 長田市長

部署をどうするか、また、人員配置をどうするのが見えないと設計ができず、行政改革推進委員会の答申を待ちたい。

Q 学校統合

生徒数が百名を切っている中学校が五校ある。生徒数が少なくて十分な集団教育が出来ていない。諸問題もあるだろうが、協議をする時期に来てい

るのではないか。教育委員会等で協議を。

A 長田市長

小規模校については、教職員と児童生徒の人間のなふれあいや個人別指導の徹底等メリットもあるが、集団による切磋琢磨などの教育効果が望みにくい。また、教員の適正配置や施設の充実等ができていくので、適切な学校規模にすることが望まれる。

Q 原の辻博物館

この建物に二十億三億という大金を投入する

ことに疑問を持っている。国・県に要請をして補助金を出来るだけ多くし、市の持ち出しや合併特例債はなるべく使わないようにするべきである。特例債は市の基金にして残しておくべきでは。

A 長田市長

遺跡保存整備と県立埋蔵文化財センター等の基本構想が策定され、県と市が共同して進めている。今後吉岐市の振興事業、重点事業として取り組んでいく。また、合併特例債についても有効に活用させて頂きたい。



吉岐の未来を担う子どもたち (鯨伏小学校にて)

山内 道夫 議員



Q 総合保養地計画

高齢社会を迎え健康への関心が高まる中、健康サービスマターを支援する新たな産業を目指すモデル都市・特区を援助する制度が来年度より施行される。将来像である「海と緑、歴史を活かす癒しの島吉岐」を建設する基本方針として、「福祉健康づくりの充実で安心の町づくり、自然を生かした環境に」と市長は言われている。吉岐市振興策の第一歩は、自然豊かな筒城浜一帯の有効活用である。当市の国保・介護保険の予算は高齢化社会によりますます膨らむ。今後、従来型の公共投資でなく軸足を転じ効果的な投資をし、健康で介護を

受けられない高齢化社会を目指す健康保養施設の筒城浜地区への建設を積極的に取り組むべきでは。

A 長田市長

旧石田町時代に筒城浜一帯を中心とした滞在型観光保養地を総合保養地整備事業いわゆるリゾート法によって整備を求めるとの提言がなされ、協議検

討されたが、リゾート法の適用は難しいとの結論であったと聞いている。しかし、テラピー海水温泉による健康を主体とした観光の活性化等、おもしろいアイデアである。また、筒城浜一帯が重要な観光資源であることは申すまでもなく、滞在型観光保養地の案も大変興味を持っており、今後検討してもらおう。



筒城ふれあい広場 (石田町筒城)

立川 省司議員



Q 固定資産
評価替えは

鑑定士評価額や航空写真
真は参考資料とし、地権
者に評価説明など理解の
得られる対応が必要。

A 長田市長

不動産鑑定評価につい
ては、固定資産評価基準
に基づき、鑑定士による
評価価格を活用し、均衡
化・適正化に努める。ま
た、航空写真も活用する
が、状況が変わった周辺
は、現地調査等を行い納
税者に対する質問・調査
等の方法により公平な評
価に努める。

Q 入札の
基本姿勢

市外からの入札参加者

には参加条件を提示すべ
きである。視察等も同様
である。

大型工事でも地元業者
を元請けとするよう検討
を求める。

物品購入や印刷他全般
に対し、地元業者を優先
するよう検討が必要であ
り、また、油類や米穀類
等の入札には特別組合法
人は除外すべきである。

A 長田市長

島外者対策は、早朝・
夕刻入札など検討する。
物品購入や印刷若しくは
大型工事も、できるだけ
地元業者にと心がけ進め
ているが、特に大型工事
については色々な問題も
あり難しい面もある。特
別法人については、状況
により対応する。

Q 行財政改革

利便性により窓口業務
が増加している支所があ
るので早急に職員数の見

直しが必要である。
各支所に対し権限移譲
を促進し行政サービスの
改善が必要である。
財務部を設置し財政課
と税務課等を置き、歳入
歳出の統括をさせてはど
うか。

A 長田市長

適正配置を含め、新た
な組織体制の検討を始め
ている。支所権限は、他
の部署との整合性を図り
ながら持たせる。また、
財務部設置は行革委員会
の結論を踏まえ検討する。



固定資産現況写真(郷ノ浦町)

橋本 早苗議員



Q 呼び戻そう
古き吉岐を

吉岐の島にも連綿と受
け継がれた信心深い習慣
があるが、近頃は随分薄
れたものだとお年寄りの
嘆きが聞こえる。札所を
尋ねられても満足な案内
ができない場合が多い。

歴史と文化の島づくり

構想には、島民誰もが歴
史浪漫の水先案内人とし
て...と謳っているが、
来島者に対して申し訳な
いし、吉州人としても情
けない。島民誰もが「癒
しのしま吉岐」の案内人
としての一翼を担うこと
も、吉岐を好きになる
リピーターの重要性、吉
岐の自然・風土・伝統を
今一度見つめ直す上から
も、吉岐四国巡礼等に便

利な案内標識やマップの
整備が必要である。

A 長田市長

吉岐の観光産業は見通
しが明るいと捉えており、
各地域の特性を最大限に
活かし吉岐は一つという
思いを高め、島民総親和
の姿を創り出して、積極
的な住民参加を通じた観

光の振興を図ることが大
切である。「癒しの島」
の一番重要なことは、も
てなしの心であり、「また
来てね」、「また来る
よ」そういう運動を皆様
方にして頂きたい。また、
案内板、標識、マップ等
は未整備であり、できる
ものから早急に整備した
い。



吉岐国巡礼三十三番札所美濃谷観音堂
(芦辺港ターミナル付近)

町田 正一 議員



患者の動向を見て対処していきたい。

Q

透析問題
市長の英断を！

公立病院には、吉岐市議会において全会一致で透析機の設置については請願が可決されている。

あとは、市長の英断のみである。私は一步も引かない。また、公立病院には緊急用ヘリポートの建設も早急に取り組む必要がある。

A

長田市長

請願については、住民サービスが低下しないようにという意味で意義があったと思っている。今の予定では、透析機五台のスペースを設けて二台設置と考えている。後は

業者に交付されると水産庁は決定しているが、当然吉岐も、その対象地域となるはずである。竹島尖閣諸島の例を見ても、国境の保全に務め外国船の違法侵入は断固拒否しなければならぬ。

緊急用ヘリポートについては、新病院の屋上という意見もあったが、建築費の問題、入院患者や周辺住民への騒音、照明等の問題がある。位置的に空港への道路の利便性が向上したことで見送りになったと聞いている。しかし将来は状況を見て検討したい。

A

長田市長

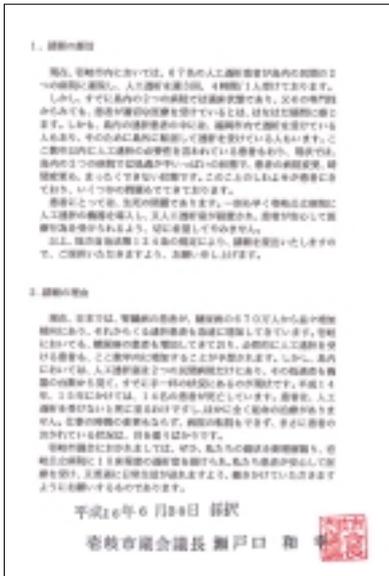
漁業者への新交付金については現在水産庁で平成十七年度事業として交付要綱を作成中であり、県まで届いてない。今後制度の内容が明確になり次第、早急な取り組みをしたいと思っている。

Q

交付金の
取り組み

来年五月から国境の監視を条件に離島漁業者に対する新交付金が直接漁

6月30日に採択された「吉岐公立病院に人工透析室の設置」を求めるための請願書



鵜瀬 和博 議員



Q

急げ！
景観条例制定

地域の史跡、風習、祭街並みや生物、里山等恵まれた自然環境や景観について蓄えられた調査資料をもとに大学や研究機関等と連携し、再調査して学術的文化的に保護・保全するべきである。吉岐市ではそれら周辺の開発を規制する条例が無い。特に原の辻においては鉄塔、電柱、商業施設等の開発を制限した景観保護条例を早急に制定すべきである。吉岐のすばらしい財産を次世代へ残すこと、子どもたちに新たな夢と誇りを持たせることが我々の使命である。そのためには核となる市民

ポランティアの育成・支援も必要。また、多様化する観光志向に対して情報効率、効果的に一極化発信すれば島の活性化に繋がるのではないか。

A

長田市長

吉岐市景観づくりは、平成十六年から十七年にかけて、美しいまちづくり推進事業として取り組むようにしている。この事業は、まさに魅力ある街並み景観を生み出し、生活空間、観光資源として計画を進めながら景観条例を制定し、事業推進を考えている。指定地域

A

須藤教育長

原の辻が弥生時代の遺跡として、日本で三つしかない特別史跡に指定されたのは原風景を残しているからだと思っっている。それを守りながら、今目立っている電柱等は地下埋設など考えている。今後関係機関とよく協議をして進めたい。



原の辻展示館周辺の様子 (芦辺町深江)



Q ケーブルテレビの導入を！

情報の収集・連携・発信の基幹となるネットワークが必要。ケーブルテレビの導入を。多チャネル化はもちろん、難視聴地域も解消。市内通話は無料になるので、市役所関連の電話料年間約六千万円が大幅に節約できる。仮に一万一千世帯から月千五百円の使用料を集めると年二億円の収入になる。インターネットも高速通信を安価で利用できるようになり、ネットワークを通じて、市内世帯の割を越える独居老人の健康管理・介護支援もできる。緊急放送ができるので、災害時

には迅速な対応が可能に。仮に四十億円の事業として国の補助もあり市負担は九億円。特例債も使える。

ぜひ、導入の検討を。

A 長田市長

地域情報化については、国の電子自治体構想にもあり、全国で推進されている。吉崎市においても、新市建設計画の中で地域に活力を持たせる情報と

して、基盤の整備を掲げ、今後の施策の中で具体的な計画をする必要があると思うが、今は計画に至っていない。議員が言われるようにいろんな分野での活用が期待され、新たな産業の誕生もあると思う。しかし、事業には予算が必要となっていく。そこで全世帯を結んでどのくらいかかるか等、目的と経費を充分研究し、検討をしてみたい。



ケーブルテレビに関する資料



Q ゴミ処理施設整備計画

自主的に議員有志八名が鹿児島県川辺市に行き「煙を外に出さず、煙に含まれる灰を含め焼却灰の中のダイオキシンを常温常圧の状態で分解し無害化する」ゴミ処理システムを見て来た。今はやりの高温溶融炉方式は莫大な設備費、ダイオキシンは残る、維持費が高む、焼却灰の埋め立てが必要など問題が多い。自分たちの頭を使って総合的な検討を。

A 長田市長

この問題は、吉崎市として最重要課題でもあり、

今基本計画書作成は環境庁の外部団体社団法人日本環境衛生センターと契約し、作業に入っている。処理方式については、検討委員会で川辺方式も含め吉崎市にふさわしい施設はどれかを検討する。

A 長田市長

今後、議会の理解を得ながら進めていきたい。

今までは、商店街と他業種との意見交換や交流を深める機会が少なかつたのではないかと。そこで今回吉岐農業改良普及所が主体となって農協、漁協、民宿、生活研究グループ、商工会各婦人部による吉岐農漁村婦人団体連絡会が組織され、情報交換や研修を計画されている。吉崎市としても応援したい。

Q 地域活性化を考える

「初盆の買い物をしよ」と日曜日に郷ノ浦に行つたが休みだった。勤務のため日曜日しか行けないのに」との声があった。農家の大半は勤務の傍ら農業に従事しているのでこのようになるが、



ダイオキシン類無害化処理施設を視察 (鹿児島県川辺郡川辺町)

【請願・陳情・要請等の審査経過報告】

第一号 要請	第一号 陳情	第二号 請願	第二号 請願	受理番号		
				件名		
				提出者		
				請願・陳情・要請の趣旨		
				常任委員会 審査付託等		
				委員会	結	
				本会議	果	
「国庫補助金等に関する改革の実現」についての意見書提出の依頼	椿（吉岐やぶ椿）を吉岐市指定の「花木」とする陳情	「タイワンリスの撲滅」に関する請願	郵政事業の民営化に反対を求める国会及び政府への意見書提出に関する請願			
全国市議会議長会 会長 片山 尹	芦辺町林業研究同志会 会長 山口 博千	吉岐市森林組合 組合長 白川 博一	吉岐市公民館連絡協議会 副会長 江田 和夫 吉岐市老人クラブ連合会 会長 山本 義人 吉岐市婦人会連絡協議会 副会長 久田 章子			
税源移譲を前提とする「国庫補助金負担金等に関する改革案」についての意見書の提出を求める。	椿は、「旧芦辺町指定の花木」であったが、吉岐市において「指定の花木」にしていたかどうか陳情する。	外来種害獣タイワンリスによる農林業被害が、数年前から勝本町を中心に島内で発生している。これらの被害を防止するため、タイワンリスの撲滅について請願する。	「郵便局の経営形態堅持並びに郵政事業分割民営化に関する意見書」の提出を国会及び政府に求める。			
文書配布 扱い	文書配布 扱い	産業経済 常任委員会	総務文教 常任委員会			
-	-	採択	採択			
-	-	採択	採択			

レポート

総務文教



原の辻遺跡全景

厚生

吉岐公立病院の移転新築基本構想は、旧町村組合議会で審議され作成された。人工透析機設置の必要性は指摘されていたが、用地の再選定など非常に時間がかかり、大幅に遅れた。その間、民間の二病院が多額の設備投資をし、先に始めてし

まった。透析患者数に対応して対応の出来る台数が設備されていると思われる。互いに競合し、相互の病院経営が困難にならないようにと基本構想に入らなかった。しかし、六月に「吉岐腎友会」等の請願を採択したことで、建設計画も変更の困難な最終段階であったため産婦人科のスペースを縮小し、急性期・緊急への対

応を中心に二台設置となった。しかし、九月二十一日の委員会で「外来透析の対応と最大限の五台設置」を強く要望した結果、その方向で購入予算の確保と運用の体制を整えることとなった。精神科と老人性痴呆病床については「基本構想」に基づき「精神病床については現在七十床のうち二十床を老人性痴呆

今回付託された議案は四件である。長崎市町村議会議員公務災害補償等組合同約と長崎県市町村事務組合同約を一部変更する件。長崎県市町村土地開発公社定款変更の件。総合整備計画策定の大島・原島・勝本・仲野郷・八幡浦・池田の各辺地の消防施設の整備計画は慎重審議を重ね決した。

所管事務調査の「原の辻遺跡整備」に関しては吉岐の将来を左右しかねない事業であり、壮大な方向性は模索されてはいるものの漠然さもまだ残っている現状を鑑み、先進類似施設の運営状況等を分析するとともに本市に合った無理無駄のない事業展開が望まれる。行財政改革についても先進事例を含めた研修と

病床とする」方針は変わらない。新たな職員の採用と配置が必要。精神科医師は老人性痴呆に対する専門的学識と診療経験が必要である。

工事が進む新公立病院
(郷ノ浦町桜川地区)



委員会

産業経済

八月二十四日に農林水産業及び商工観光事業の振興調査のため、市漁協組合長会会長・市農協組合長・商工会連合会会長・吉岐観光協会会長の四団体代表者に「これからの展望」という内容で現況と合わせて講演を頂いた。

農漁業とも、資源の減少や価格不安定による低所得が就労に対する意欲減退となり、高齢化の進行と共に後継者対策が課題の一つとされている。また、観光商工においては、体験型事業による修学旅行や合宿等の誘致、並びに吉岐産のブランド化を積極的に推進し、島外への更なるアピール強化が求められている。

各団体共通の認識として、活力ある街づくりのため、それぞれに英知を結集し、また、官民一体となつて連携・協力し合い産業の育成や吉岐の情報発信に努めることが今後重要であると痛感した。その実現こそが本市の将来に明るい展望をもたらすものと考え。

また、会期中の九月二十一日には、サンドーム吉岐・岳の辻・錦浜砂流出地・芦辺港ターミナル等、整備計画や点検が必要な施設公園を今後の検討資料とするために視察調査を行った。



浜やせにより段差が生じた砂浜（石田町錦浜）

建設



今年中に完成予定の市道内海線（芦辺町八幡小学校付近）

平成十六年第三回吉岐市議会定例会において、今回委員会に付託された議案五件、認定二件について九月二十一日の委員会において慎重審議の結果、全議案について原案の通り可決された。

現地調査では、市道三路線（芦辺浦中央線道路改良事業、内海線道路改良事業、深江二亦線道路改良事業）の平成十五年度一般会計予算繰越明許費の事業についての進捗状況を調査した。平成十五年度の繰越事業であるので、着工・施工はされているものの、用地交渉が旧町のままで未解決区間の道路事業であり、今後全ての事業について完全に用地の買収及び登記終了後に着工することを原則とするように要望した。

また、馬立海岸の進捗状況についての調査では、県営事業が進められており、市の事業としては埋立て工事を平成十六年度に着工することになっている。

傍聴席から

勝本町
川上 忠



6月22日。市議会を初めて傍聴した。今まで別世界のように感じていた所だったが、知り合いの議員さんのお陰でその壁も崩れた。まさに、案ずるより産むが易し。9月13日には、遂に2回目を数える程になり、過去の分まで挽回する勢いである。

「一人ひとりの声を政治に反映させよう」とは分かっているが、私のような臆病な者には馬耳東風。しかし、特効薬はあった。議員さんからの「お誘い」である。

行政側と丁々発止で意見を交わす一般質問は、議会人としての檯舞台であろう。ここを傍聴して欲しいというのである。折角の好意を断る理由もない。行ってよかった。壱岐の島をこんなにしたというすっきりしたビジョンが見え、自説を弁じていた。体中にみなぎる意欲も感じられた。ファンを大事にする野球じゃないけれど、市民を大事にする心遣いに惚れた。独り胸が熱くなり、3回目に意欲が湧いた。

研修報告

よりよい紙面を求めて

広報特別委員会は、8月20日に佐賀県嬉野町で視察研修を行いました。予定では、19・20日の2日間で福岡の田主丸町と2ヶ所の研修でしたが、台風接近により嬉野町だけの研修となりました。

嬉野町の議会だよりは、毎年議会広報全国コンクールで入選を続けており、議会だよりはと思えない斬新なデザインや読みやすい紙面など素晴らしいものでした。

研修は、嬉野町の広報委員長をはじめ委員のみならずとフリートーク形式で編集体制や編集行程など議会広報について活発な意見交換を行いました。

今後も、市民の皆様にわかりやすく親しみやすい紙面を作るため、努力を続けていきたいと思えます。



嬉野町役場にて（8月20日）



なかよく登校する那賀小学校の子供たち
（今坂フラワーラインにて）

編集後記

台風シーズンとは言え、今年は度々その報道に右往左往させられました。幸い、壱岐にはさしたる被害もなく、無事に通過してくれましたが、連日の時化に漁の方はあがったりで、魚市場もいささか活気に欠けているようです。さて、今回の議会では、新公立病院を始め、市の抱える深刻な問題に本会議ではもちろんのこと各委員会、全員協議会でも激しい議論が交わされました。こうした議会の内容をより知って戴くために今号から常任委員会の活動を掲載することにしました。

広報委員会

議会だより 第3号

平成16年11月1日
発行 / 壱岐市議会 編集 / 議会広報特別委員会
〒811 5521長崎県壱岐市勝本町西戸触182 5
TEL 0920 42 1111 FAX 0920 42 1116
E-mail gikai@city.iki.nagasaki.jp

議会だよりは壱岐市ホームページ（<http://www.city.iki.nagasaki.jp>）にも掲載しています。



この議会だよりは、古紙配合率100%再生紙、環境に優しい大豆油インキを使用しています。